イヒナビ

vol.5 ihinavi

October-1/2024

旭化成ホームズ株式会社
東京法人支店

離れて暮らす親世帯と共に暮らすという選択肢

自然災害が増えている
今だから考えたい親世帯との暮らし

研究データから読み解く

防犯を考えたら
二世帯が安心？

二世帯住宅を深掘りする

自宅はもちろん、離れて暮らす親世帯も心配・・・

自然災害が増えたいる今だから考えたい親世帯との暮らし

2024年9月21日に、能登半島の線状降水帯により、災害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。今年の元日の大地震から、復旧もまだされていない状態で、仮設住宅も浸水に合うという、本当に辛い災害が発生しました。
今年は、都心でも風水害が急増しており、各所でゲリラ豪雨や、地下鉄の駅が浸水するなどの被害がありました。
おそらく今後も、風水害は増えていき、そして地震発生の確率も高まってくるため、親世帯と離れて暮らされている場合は、高齢になるご両親の心配をされている方も多いのではないでしょうか？
もし、これから家を建てる、建て替える予定などされている場合は、二世帯住宅というスタイルも、是非候補に入れていただきたいと思っております。

これからの時代、二世帯住宅が魅力に

自然災害が増えると、実家であるご両親の家、そして自分たちの家など複数の家を心配されている方も多いと思います。そこでこれからの時代、災害対策を徹底し、プライバシーも守れる二世帯住宅を建てることで、互いの心配を軽減し、安心して暮らせる家づくりを考えてみることも検討していただきたいと考えています。

ヘーベルハウスに30年暮らした方の二世帯満足度調査

親との同居満足度	孫との同居満足度	介護時も安心
91%	90%	98%

※旭化成ホームズ調べ「ヘーベルハウスに30年暮らした家族による二世帯住宅の評価と住まいの継承の実態」より

二世帯のスタイルはこんなにも豊富

独立二世帯STYLE

キッチン・玄関・浴室など、すべての生活空間を分け、各世帯が独立して暮らす二世帯住宅。プライバシー確保にも優れ、それぞれの生活リズムの違いも間取りで解消できます。

1. キッチン・玄関・浴室は別々
2. フロアの水廻り位置を合わせる等の配慮
3. 独立性を保ちながらも交流できる工夫
4. 家族・友人が招けるスペース確保

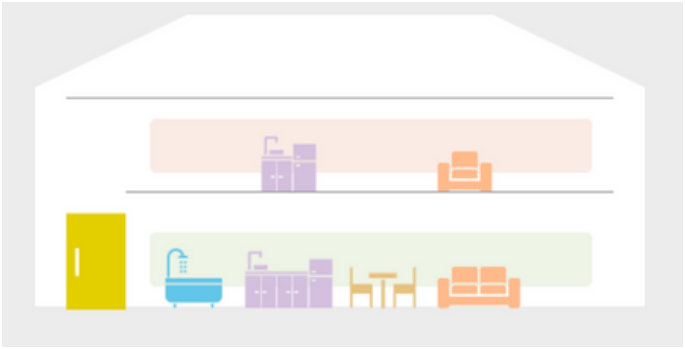
共用二世帯STYLE

食事の空間を独立させつつ、玄関や浴室など一部を共用してスペースを効率よく使う二世帯住宅。各世帯の専用部分と共用部分の分け方がポイントになります。

1. 玄関・浴室などの一部を共用
2. キッチンを別々に、食事の空間を独立
3. 共用部分を作ることで建築コスト削減
4. それぞれの暮らし方を尊重しながら共生

融合二世帯STYLE

食事の空間を共用しながら、サブキッチンやサブリビングなどの世帯別空間を設けた二世帯住宅。共働き夫婦など、家事や育児の協力がしやすいのが、特徴です。



1. 玄関・浴室などの一部を共用
2. サブキッチンなど、独立空間の設置
3. 共用部分を作ることで建築コスト削減
4. 家事や育児の負担を軽減

二世帯住宅は侵入窃盗のリスクがなんと、半分以下！

前号の「イヒナビvol.4」でもお伝えしましたが２階リビングは侵入窃盗のリスクが低いという調査結果が出ています。同調査によると、２階建てで比較した場合、二世帯住宅の侵入リスクは単世帯住宅の半分以下で、エリア差も比較的少ないことがわかりました。

二世帯住宅の侵入窃盗リスクが低い理由

１）親世帯が在宅し留守が少ない

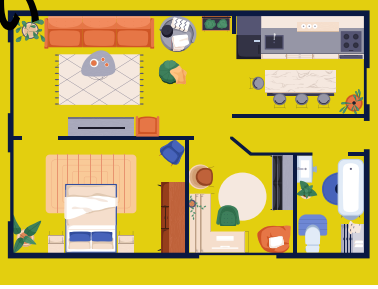
お子様世帯が共働きだとしても親世帯が在宅していることが多いと予想されるため、敬遠されていると推測されます。

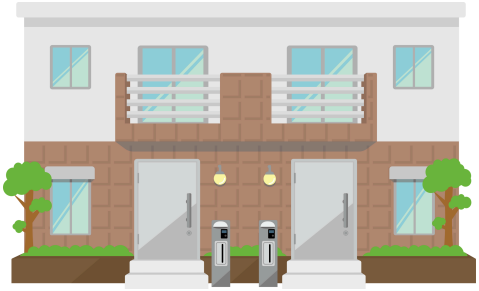
２）両世帯で見守り合うイメージがある

互いに連絡を取り合ったり、急な雨の場合は洗濯物を取り入れたりなど、互いのスペースへ行き来するイメージが強いと推測されます。

３）典型的な間取りでなく複雑で予測しづらい

一般的な間取りでないと想定されるので、高価なものがどこにあるのか？など探すのに時間がかかるという先入観があると推測されます。





このように、生活リズムがずれて家族が出入りするといった、二世帯特有の要素は留守を狙う犯罪者にとっては避ける要因と思われます。そのため、実際の統計データでも二世帯の方が侵入窃盗のリスクが低いことがわかりました。

二世帯住宅での安心感と
災害に強い家の安心感を

ヘーベルハウスでは、40年以上、二世帯住宅を研究して参りました。そのノウハウやお客様の家族構成やライフスタイルに合わせた間取りのご提案はもちろん、災害面でも親世帯も子世帯も守ってくれる家づくりをしてみませんか？

1 独立二世帯
吹き抜けなどこだわりを実現した、40坪台の共働き二世帯住宅

アウトドアリビング感覚で使える「そらのま」。道路側はルーバーで視線をゆるやかにカットし、子どもたちが伸び伸び遊べるスペースに

2 共用二世帯
ウッディなインテリアで多彩な過ごし方を楽しむ3階建て

ダイニングと程よくつながるリビングは、季節でラグやクッションを入れ替え。LDK全体がオープンな作りのため、子ども連れで大勢集まってもそれぞれの居場所で楽しく過ごせます

3 共有二世帯
友人にカクテルや珈琲を振る舞う、バーカウンターのある住まい

愛犬と一緒にくつろぐ、Fさん夫妻とお母様。「冬暖かく、夏涼しく暮らせる住まいになりました」

＜編集後記＞

先日の能登半島での風水害のニュースは、災害大国である日本に、大きな衝撃を与えました。

今後も益々自然災害は増えていくと予想される中、これからは互いに手を取り合う生活が重要視されてくるのではないか？と私たちは考えています。

特に地震は、予測ができないので、いつ起こるかわかりません。子世帯の方がオフィスで働いている時に起きたり、通勤途中に発生する可能性も考えられます。そんな時、二世帯住宅で暮らしていれば、親世帯との連携で、小さなお子様やペットなどを避難させたり、自宅の被害状況なども確認できます。

また、親世帯が子世帯や孫たちと近くで暮らすということは、大きな刺激にも繋がります。認知予防という観点からも二世帯住宅という選択肢をぜひご検討していただければと思います。

またヘーベスハウスでは、二世帯住宅の研究を長年続けて参りました。そこで得た実績をベースにプライバシーを保てる間取りのご提案なども可能です。

お気軽に担当まで、ご相談くださいませ。

旭化成ホームズ株式会社 東京法人支店